

写真活動を通しての当事者理解

## 当事者の 素晴らしい感性を 写真で発見！

写真家 小林 順一  
障がい者写真集団「えん」主宰

J.Kobayashi Landscape part 1 (1990)  
<http://www.geocities.jp/yoten2006/wave.html>



## 写真による当事者支援の経緯

写真による支援の切っ掛けは、

息子が20歳の時に統合失調症に罹患して精神障がい者の現状を知る。

- 入院によって隔離され管理された生活。
- 入退院を繰り返すことで、依存的な生き方を強いられ、社会生活機能の低下をきたす。
- 病院に日中支援が集中していたので、今まで地域との交流がなかった。
- 社会に偏見があることで、仕事もなく必要とされず認められない生活で、誇り・尊厳を失う

## 精神障がい者は、先駆者！

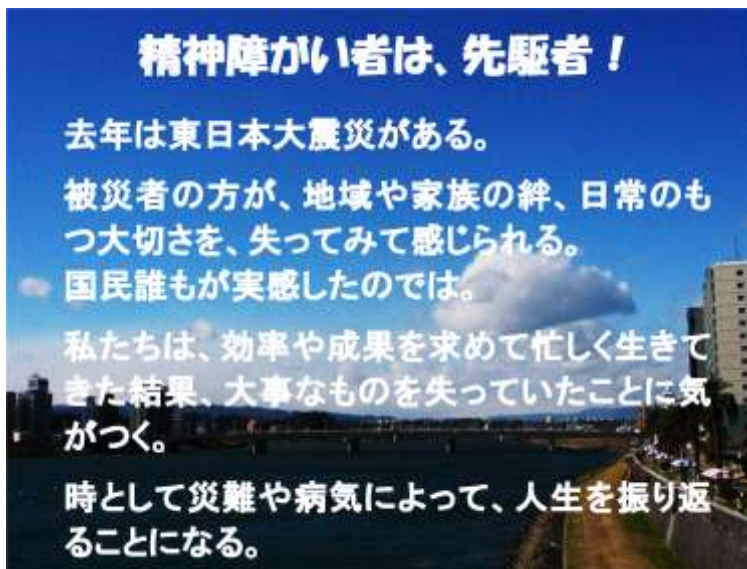
去年は東日本大震災がある。

被災者の方が、地域や家族の絆、日常のもつ大切さを、失ってみて感じられる。

国民誰もが実感したのでは。

私たちは、効率や成果を求めて忙しく生きてきた結果、大事なものを失っていたことに気がつく。

時として災難や病気によって、人生を振り返ることになる。



## 写真活動のミッション！

精神障がい者が写真ワークショップを通して、地域に出ていき住民の方と触れ合ったりする中で、自分の感性を発見したり、地域の素晴らしさを再発見することで自信と誇りを回復することを目指す。

精神障がい者特有の対人関係や日常生活機能の改善に、写真ワークショップが有効に作用すると考えます。

- 人の視線が過剰に気になる！  
見られることから、見ることに反転する
- 人と話すのが苦手！  
街でカメラを持っていると優しく話しかけられる  
撮った写真を話題にして話す

## 写真の撮影姿勢に関して！

自分が撮りたいという興味と意欲を持って撮った写真が、最高である。

写真が上手いとか下手という事を気にせず、自分の感性を信じて撮ることに意味がある。

テクニックは、二次的な事であって経験を積めば必然的に上手くなる。



初めての撮影で、舗装の道端に甲斐に花が咲いているのに感動したから避きました





薄暗い草むらに小さな花が一瞬命伏いてる姿に感動したので



今日は退院して初めての写真ワークショップに参加しました。日ごろ感じないものをカメラを通して感じることが出来ました。



初めて写真活動に参加してシャッターに書かれたアートに心を奪われました。街の個性がとよくあっていると感じました



写真活動に初めて参加させていただきましたが、普段にながなくおいている朝の中で意外と気がつかない風景がたくさん存在するのだなと感じました。



馬と食器が出来たような気がして楽しみました。撮った写真を売って納めしました



公園に子供の銅像があるのを見て、将来子供たちがどんな大人になっているのかを考えて楽しみました。



撮影に行くときに写した写真で、構図と歩いている姿が気に入ったので選びました



初めての撮影でしたが経験があったので何でもかんでも楽しく撮影しました



造形の表情がよかったのでアップで撮りました





満った専賣舎モニターで見たときに、私の文化公園は、これだなと感じて選びました



誰も座っていないベンチを選び、モニターで見たときにいい雰囲気だったので選びました



ここがクリアになる感じと先の明るさを感じる風景だったので選びました











障がい者写真集団「えん」 愛・ラブ・みやざきプロジェクト



2009年10月3日～18日（会場・フローランテ宮崎）

障がい者写真集団「えん」 愛・ラブ・みやざきプロジェクト



2009年10月3日～18日（会場・フローランテ宮崎）



### ドキュメンタリーフォトフェスティバルでの写真ワークショップ開催



「宮崎の街を再発見しよう！」

2009年10月25日(日曜)

20名参加



場所・みやざきアートセンター



## 最後に！

病気になってよかった、という言葉を知りたくて  
病気はマイナスではなく、新しい気づきがあつたり、  
出会いを作り出してくれるもの

誰もが家庭・地域・職場で、認められることで誇りや自信が持てる

私自身、写真という天職を活かした活動によって誇りが持て、  
新たな写真の可能性を实践させてもらっている  
息子に感謝している

FIN

J.Kobayashi Landscape part 1 (1990)